道徳学習指導案

大阪市立北鶴橋小学校

指導者　Ｔ１：学級担任

Ｔ２：栄養教諭

１．日　　時　　平成３０年１１月２１日（水）第６時限（１４：４０～１５：２５）

２．学年・組　　第６学年

３．場　　所　　第６学年教室

４．主題名　　持続可能な社会　　（内容項目　Ｄ　自然愛護）

５．教材名　　『緑の闘士　－ワンガリ・マータイ－』（日本文教出版　生きる力）

６．ねらい　　日々の生活の小さな努力や工夫によって、かけがえのない自然環境を大切にしていこうとする態度を育てる。

７．食育の視点（食に関する指導の目標）

○食料の生産は、すべて自然の恩恵の上に成り立っていることに気づく。（感謝の心）

８．主題設定の理由

（１）児童の実態について

　　　※個人情報のため削除

（２）教材について

　　本教材は、「MOTTAINAI」という言葉を広め、ノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリ・マータイさんの自然環境保全活動のお話である。マータイさんが感銘を受けた「MOTTAINAI」という日本語には、Reduce（ごみ削減）Reuse（再利用）Recycle（再資源化）という環境活動の３Ｒの意味だけでなく、かけがえのない地球資源に対するRespect（尊敬の念）が込められている。「MOTTAINAI」という言葉がそのまま世界でも使われていることを知り、資源に対する尊敬や感謝の気もちからも環境問題を考えることができる教材である。マータイさんの姿を通して、児童が身の回りの「もったいない」に気づき、自然環境を大切にしていこうとする態度を育てることをねらいとしている。

　　本時では、食を例として取り上げ、食品ロスの動画を見せることで、「もったいない」という実感をもたせたい。また、児童にとって身近な食事である給食を教材とすることで、日々の生活に近づけることができるようにした。

（３）指導について

　　導入では、「MOTTAINAI」という日本語をそのまま世界に広めたマータイさんについて簡単に紹介し、教材への興味を高めさせる。教材文を読んだ後、知識を得ただけにとどまらないように、児童の身近な「給食」は何からできているかを考える。できあがるまでに関わる人々がいることにも気づくことができるようにし、生き物の命や作ってくれた人々の努力や手間、気持ちなどをごみにしてしまっていないかを考えることで、より自分たちの問題と捉えられるようにする。その後、食だけではなく身の回りの「もったいない」に視野を広げられるようにする。

学習後、学級活動の時間をつかって身の回りの「もったいない」についてもっと深く考え、実際にできることを考えていく。児童の意欲が持続しやすいように、特に学校の「もったいない」に焦点を当てて、『学校「もったいない」プロジェクト』を計画する。まずは、児童一人一人が出した「もったいない」から、全校で取り組むことができる内容を絞るようにする。最後に、計画した『学校「もったいない」プロジェクト』を学校全体に広める。児童の活動の成果ができるだけ実感できるような取組みが行いたい。例えば、家庭科において古着をリメイクしたり、古い布ではたき等を作り、他学年に広めたりすることで、自分たちの行動でも環境を守ることができることを実感できるようにしたい。

９．高めたい力

　・「もったいない」という言葉を広め、自然環境保護活動に取り組むマータイさんの姿を通して、日々の生活の小さな努力や工夫によって、かけがえのない自然環境を大切にしていこうとする態度を育てる。

・一人一人の日々の生活の小さな努力や工夫によって、自然環境を大切にすることができる。

・自然や物を大事にしなければいけない。

　　授業前の児童の様子と考え方（道徳）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　授業を通して高めたい考え方

・生き物の命や作り手に感謝し、日々の生活の中で自分にできることを考える。

・食べものは残さず食べなければいけない。

　　授業前の児童の様子と考え方（食育）　　　　　　　　　授業を通して高めたい考え方

１０．学習指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の学習活動 | 主な発問と予想される児童の発言  〇：T1　●：T2 | 指導上の留意点(〇)  準備物など(●)  期待する児童の学習(＊) |
| 導入 | １．「ＭＯＴＴＡＩＮＡＩ」を広めたワンガリ・マータイさんを知る。 | 〇日本語のままで世界でも使われている言葉を知っていますか。  ・kimono ・sushi　など  〇「もったいない」という言葉は、どんな時に使うでしょうか。  ・まだ使えるのに捨てた時。  ・むだ使いをした時。  〇「ＭＯＴＴＡＩＮＡＩ」という言葉を世界に広めようとした人を知っていますか？ | 〇児童が教材に興味をもつように質問し、児童の発問を促す。  ●ワンガリ・マータイさんの写真 |
| 展開 | ２．教材文を聞いて「もったいない」について話し合う。  ・ワンガリ・マータイさんの活動について知る。  ３．身の回りの「もったいない」について考える。  ①食についての「もったいない」について考える。  ・食べ物を捨てている現状を見て話し合う。  ・食べ物を残すというのはどういう意味か考える。  　生き物の命  作ってくれた人の気持ち  →ごみ（むだ）にしている。  ②家庭を含めた、身の回りの「もったいない」を考え、交流する。  ４．自己の生活を振り返る。 | 「もったいない」を考えよう  〇マータイさんは、なぜ日本語の「ＭＯＴＴＡＩＮＡＩ」に感動したのでしょう。  ・３Ｒ+Respect（尊敬の念）  ●動画を見て思ったことをペアで話し合いましょう。  ●生き物の命をみんなはきちんと受け継ぐことができているでしょうか。  〇自分の回りにもったいないことは他にないでしょうか。  〇まず自分ができることは何かを考えてみましょう。 | 〇「３Ｒ」だけではなく、尊敬の念が含まれていることをおさえる。  〇動画を見せることにより、児童が「もったいない」と実感できるようにする。  ●食品ロス（動画）  〇給食を例に考えることにより、児童に身近なものにする。  ●給食写真  ●ワークシート  〇自分の家庭や学校など、身近な場面を想像できるようにする。  ●ワークシート  ＊かけがえのない自然環境を大切にしようとすることを、自分との関わりの中で考えることができる。 |
| 終末 | ５．「ふろしき」について教師の話を聞く。 | 〇ワンガリ・マータイさんが称賛した「ふろしき」について紹介する。 | 〇身近なことから始めること、できることから取り組むことの大切さを示す。 |